

7. 小児がん

活動(アウトプットをもたらす活動の内容)	結果(アウトカムをもたらすために期待される活動の結果)	中間成果(目標アウトカムに資する中間的な変化)	目標成果(達成すべき目標;あるべき姿)
<p>1 県は、琉大病院および子ども医療センターと協力連携し、看護師、保育士、常勤医師、研修医の増員や常勤化を行い、研修医への教育を行う。</p>		<p>琉大病院および子ども医療センターにおける、小児がん患者の看護師・保育士・常勤医師が増加する。 ・26年度には、それぞれの施設で看護師が増加し、常勤保育士が1名、常勤医師5名が勤務している。 ・29年度には、それぞれの施設で看護師が5対1体制の確立し、常勤保育士が2名、常勤医師8名が勤務している。</p> <p>琉大病院は、小児血液がん専門医を目指すすべての研修医に対し、小児血液がん専門医の教育を行う。 ・26年度には、小児血液がん専門医が5名なる。 ・29年度には、小児血液がん専門医が10名なる。</p>	<p>小児がん患者が適切で質の高い医療を受けることができる。 [目標] ①小児がん専門施設に90%以上が集約される。</p>
<p>2 県は、琉大病院および子ども医療センターに小児がん病床を増加する</p>	<p>小児がん病床が増加する。 ・26年度には、琉大病院は(現在15床)から17床に、子ども医療センター(現在12床)から20床に増加している。 ・29年度には、琉大病院は20床に、子ども医療センターは25床に増加している。</p>	<p>小児がん病棟へ入院を希望する患者が実際に入院できるようになる。 ・26年度には、希望するすべてのがん患者のうち80%が小児がん病棟に入院できる。 ・29年度には、希望するすべてのがん患者のうち90%が小児がん病棟に入院できる。</p>	
<p>3 県は琉大病院および子ども医療センターと協力連携して、小児がん患者に対して教育環境の提供を行う。 ①養護教員の増員 ②情報通信技術を使った教育(ICT)ができる院内教室の増設 ③院内職員室の新設</p>	<p>琉大病院および子ども医療センターに教育環境が整備されている。 ・26年度には、琉大病院および子ども医療センターに、院内教室が1室ずつ整備され、ICTを受講できる教室が整っている。また、院内職員室が新設されている。 ・29年度には、患者数に応じ養護教員が増員され、ICTを受講できる教室が2室ずつ整っている。</p>	<p>琉大病院および子ども医療センターに、院内教室が増設、院内職員室が新設され、養護教員が増員される。 ・26年度には、ICTができる院内教室の増設され、院内職員室の新設される。 ・29年度には、養護教員が患者数に応じ増員される。</p>	
<p>4 県は、小児がん患者や家族に対し、ファミリーハウスの新設や借り上げを行う。</p>	<p>琉大病院および子ども医療センター付近にウィークリーマンションの部屋を借り上げる。 ・26年度には、琉大病院付近に2室、子ども医療センター3室、ウィークリーマンションを借り上げる。 ・29年度には、琉大病院付近に4室、子ども医療センター6室、ウィークリーマンションを借り上げる。</p>	<p>小児がん患者や家族が、借り上げたウィークリーマンションを利用する。 ・26年度には、利用日数が延べ〇〇日間、利用人数が延べ〇〇人 ・29年度には、利用日数が延べ〇〇日間、利用人数が延べ〇〇人</p>	